

悲劇を真の平和の実現のために



分断に橋を架ける

医療でイスラエルとパレスチナの

ガザ地区の貧困地域、ジャバリア難民キャンプ出身の医師で、パレスチナ人としてイスラエルの病院で働く初の医師となったイゼルディン・アブラエーシュ博士は産婦人科でイスラエル人とパレスチナ人両方の赤ちゃんの誕生に携わってきた。「ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒の赤ちゃんの違いは？みんな同じく生まれたての赤ちゃんだ」と、共存が可能であることを自らの医療で体現してきた。彼は、ガザからイスラエルの病院に通いながら、病院で命が平等なように、外の世界でも同じく人々は平等であるべきだと、分断に医療で橋を架けようとする。しかし、両者の共存を誰よりも望んできた彼の赦しと和解の精神が、究極の試練にさらされる。

問題は暴力で対処しても

2009年1月、アブラエーシュ博士の自宅がイスラエル軍の戦車の砲撃を受け、3人の娘と姪が殺害されてしまうという悲劇が彼を襲う。砲撃直後、博士の涙の叫びの肉声はイスラエルのテレビ局で生放送され、イスラエル中に衝撃と共に伝わった。翌日、テレビカメラの前で、博士は突然憎しみではなく、共存について語りだす。その後、正義を求めてイスラエル政府を訴え、娘の死の責任を追求するも、決して復讐心や憎しみを持たない彼の赦しと和解の精神は、世界中の人々に感動を与え、数え切れないほどの賞を受賞し、“中東のガンジー、マンデラ、キング牧師”とも呼ばれる存在となる。自伝『それでも、私は憎まない』は世界的ベストセラーとなった。しかし、2023年10月7日のハマスのイスラエルへの攻撃、それ以降のガザへの攻撃を経て、彼の信念は再び試されることになる。



@Filmoption

もし、私の娘たちがパレスチナ人とイスラエル人の平和への道のりの最後の犠牲なら、私は娘たちの死を受け入れるだろう。

—— イゼルディン・アブラエーシュ博士

5度のノーベル平和賞ノミネート

私は憎まない

監督:タル・バルダ 脚本:タル・バルダ、ジェフ・クライン、サスキア・デ・ボア プロデューサー:ポール・カデュ、マリーズ・ルイヤー、イザベル・グリッポン、タル・バルダ
製作総指揮:マヤ・カデュール・ルイヤー、マルタン・カデュール・ルイヤー、マリーズ・ルイヤー
登場人物:イゼルディン・アブラエーシュ、クリスティアン・アマンプル、シュロミ・エルダー 他 制作:Filmoption 配給:ユナイテッドビーブル
協力:JIM-NET、日本国際ボランティアセンター(JVC)、パレスチナ子どものキャンペーン、ピースポート 92分/カナダ・フランス/2024年/ドキュメンタリー

『私は憎まない』上映会

当上映会の収益金は
国連 UNHCR 協会に寄付します

上映会 Anjo 公式 LINE

日時 ▶ 2025年1月18日(土) 午後2時上映開始 (30分前開場)

会場 ▶ アンフォーレ1階ホールにて 安城市御幸本町504-1

上映協力金 ▶ 1,000円 (障がい者&18才以下は無料) ※事前申し込み不要

後援 ▶ 安城市・安城市教育委員会 主催 ▶ 上映会 Anjo 090-1737-8429 (天野)



今後の上映会
情報をご案内
します。
ぜひ、ご登録
下さい!